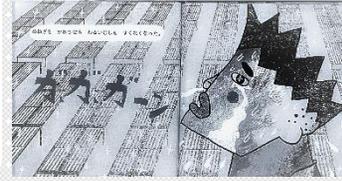


笑顔創造

Smile creation

第18号



「めねぎのうえんのガ・ガ・ガーデン!」より：合同出版

発行日 2024年6月24日
発行元 京丸園株式会社
代表取締役 鈴木厚志
〒435-0022
静岡県浜松市中央区鶴見町 380-1
Email kyomaru@ck.tnc.ne.jp
URL <https://www.kyomaru.net>

農業と医療

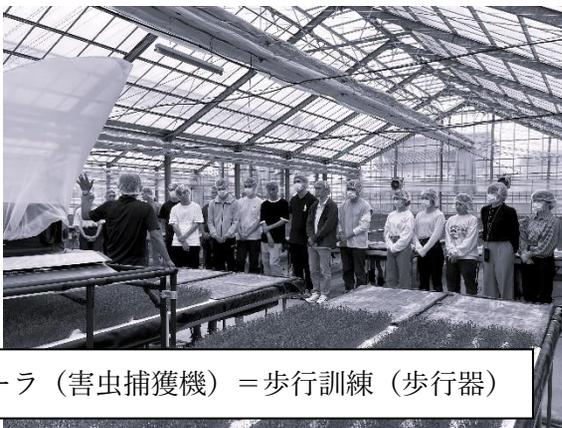
聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部作業療学科の学生が授業で農園にやってきました。将来は、医療分野で活躍する人達です。

ユニバーサル農業の実践は、「野菜生産の農業」の枠を飛び出し「働き場の創出」と同時に「機能回復訓練の場（リハビリ）」にも繋がる可能性があります。

以前、ケガをして病院にリハビリに通っている方が「リハビリしながらですが働きたい」と農園にやってきました。病院と連携し無理のないようなメニューを作り働いてもらうことになりました。

その方の第一声は、今でも忘れません。

『今朝、家を出るとき「仕事行ってきます!」と言って出てきました!』と。病院へ行くのと働き場に行くことがこんなにも違うんだと目をキラキラさせながら教えてくれたのです。作業療法士（医療）の視点が働き場（農業）と繋がることを期待しています。



虫トレーラ（害虫捕獲機）＝歩行訓練（歩行器）

見学通じて学んだことが二つあります。一つ目は、作業指示は、具体的に相手に伝わる工夫が必要だと学びました。二つ目は、働きやすい環境をこちら側が提供することで、障がい者の方のできない仕事内容、作業がある場合、仕事内容や作業を変えるのではなく、どうしたらその方がその仕事や作業ができるようになるのかを経営者側や作業療法士が考え見つけてあげること、経営者も障がい者の方もよりよい関係を築くことができると学びました。

一番印象に残っている内容は、働きながら障がいの方がリハビリできる環境を作ることです。今回、京丸園の中でもリハビリを行いながら仕事を行える作業を実際拝見してふつうリハビリは、お金を払って行うことがお金を稼ぎながらリハビリができる環境になるのだと驚きました。

自分が作業療法士として臨床に出られたら、このような仕事を行いながらリハビリができる環境を考えられるようにしたいです。

学生レポートより抜粋

CLユニバーサル指導員誕生!

2ヶ月間8回講座で学び第1期指導員が誕生しました。経験と勘に頼っていたら後任を育てることが難しく衰退していくことを農業が証明しました。ユニバーサル農業の伝承も経験と勘に頼ればこれから普及発展は望めません。論理的なものに整理し伝え広める必要があります。

CL (Constructive Living) は、国際ライセンス教育プログラムとして確立されています。そこにユニバーサル農業の考えをプラスしたことで世界に通じる指導員資格を作り上げることができました。

ここから指導員さんたちが世界にユニバーサル農業を推進して行ってくれることでしょうか。指導員さんは、自らの実体験や研究を基礎に指導していくのでまだまだ現場で実績を作り上げる必要があります。京丸園では、引き続き一年に1人以上の障がい者雇用を行い90歳まで安全に働ける農業現場の改善に挑戦し研究報告を行っていきます。



加藤大幸さん（左）
川口久寿さん（右）
CLユニバーサル指導員
合格おめでとうございます!

～今月の活動～

- 6月1・2日 静岡経営塾
- 6月11日 札幌心療福祉専門学校
- 6月13日 台湾共用品推進協会
- 6月18日 浜松市立萩岡小学校ユニバーサルデザイン
- 6月20日 西部農林事務所5S講座
- 6月25日 浜松市ユニバーサル農業研究会
- 6月26日 静岡県立農林環境専門職大学農福連携研究
- 6月27日 静岡県立湖北高校 ユニバーサル農業
- 6月29日 NHK ラジオ第2 社会福祉セミナー 19:00

◎参加できます! 毎月開催

6月21日金曜日 浜松建設的な生き方を学ぼう

19:00~21:00 開催場所:京丸園

オリジン・コーポレーション 杉井保之氏をお招きして

の勉強会です。参加費 1,000円 事前連絡をお願いします。

今月のことば

働きの場は

身体を治す場となる

可能性がある